

家庭編

平成29年度「ごみゼロやまがた県民運動」

山形県では、全国一ごみの少ない県を目指して、「第2次山形県循環型社会形成推進計画（中間見直し版）」を策定し、各種施策を実施しています。今回、「ごみゼロやまがた推進県民会議」では、それぞれの家庭や会社で取り組むべき「ごみゼロやまがた県民運動」展開方針を策定し、全県的な県民運動を推進します。本県の「1人1日当たりのごみの排出量（平成27年度実績）」は、927gで全国17位です。平成27年度における全国1位は長野県の836gとなっています。

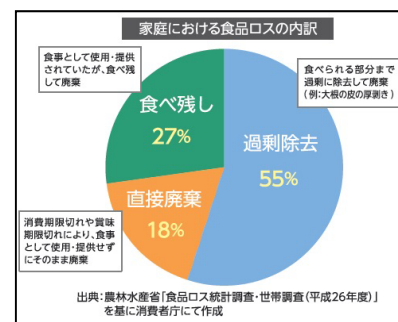
1人1日当たり約100gごみを減らして、全国一ごみの少ない県を目指しましょう

以下の3つの運動の中で出来ることから始めましょう

食品ロス削減運動

国民1人1日当たりの食品ロス(食べられるのに廃棄される食品)量は、約134gに及び、茶碗約1杯のご飯の量に相当します。

(出典:農林水産省及び環境省「平成26年度推計」)



○賞味期限と消費期限、実は違います

・「賞味期限」は「おいしく食べることのできる期限」、「消費期限」は「食べても安全な期限」です。賞味期限を過ぎてはすぐ捨てず、においなどで食べられるか判断しましょう。

○冷蔵庫内に『忘れられた食材』は、ありませんか

・買い物に出かける前に冷蔵庫内をチェックし、必要な量だけ購入しましょう。

○食べられる部分まで捨てないで

・調理はできるだけ捨てる部分を少なくし、余った料理は作り替えましょう。

環境にやさしい料理レシピ(⇒インターネットで検索)

生ごみの水切り・堆肥化運動

生ごみの約8割は水分が占めています。水分を減らすだけで、ごみを大きく減らすことができます。

○生ごみの水切りでゴミ袋のダイエット

《水切りアイデアの一例》※一晩置くだけで、水分量を49.2%削減できます。

- ① ペットボトル(2L)へ小石を入れる。重さは約2,500gになる。
- ② 三角コーナー等の生ごみの上にペットボトルを置く。



○生ごみ堆肥づくりにチャレンジしよう

・生ごみを自宅で処理することで、たい肥として家庭菜園などで活用できます。

市町村では生ごみ堆肥化装置への助成を行っているところがあります。

ごみの分別徹底運動

○雑紙分別で燃やせるごみが大幅減!?

・リサイクルできる紙類を市町村の雑紙回収に出すことで燃やせるごみを大きく減らせます。

○店頭回収で買い物ついでにリサイクル

・お買い物の際はキレイに洗った食品トレイや牛乳パックなどをマイバッグなどに入れて持っていき、スーパー等の店頭回収に出しましょう。

○捨てないで!家庭に眠るレアメタル

・不要となったパソコンや携帯電話などの小型家電にはレアメタルなどの貴重な資源が含まれています。各市町村の回収に出しましょう。

○資源回収で地域に貢献しよう!

・町内会や子供会などが行っている資源の集団回収に積極的に協力しましょう。



ごみゼロやまがた
県民運動キャラクター
『ごみゼロくん』

発行: ごみゼロやまがた推進県民会議

お問い合わせ: ごみゼロやまがた推進県民会議事務局

山形県環境エネルギー部循環型社会推進課

TEL:023-630-2302 FAX:023-625-7991

山形県では、全国一ごみの少ない県を目指して、「第2次山形県循環型社会形成推進計画（中間見直し版）」を策定し、各種施策を実施しています。今回、「ごみゼロやまがた推進県民会議」では、それぞれの家庭や会社で取り組むべき「ごみゼロやまがた県民運動」展開方針を策定し、全県的な県民運動を推進します。本県の「1人1日当たりのごみの排出量（平成27年度実績）」は、927gで全国17位です。平成27年度における全国1位は長野県の836gとなっています。

1人1日当たり約100gごみを減らして、全国一ごみの少ない県を目指しましょう

会社全体でごみ減量に取り組むことで、環境面だけでなく、経費の削減や生産性・歩留まりの向上、目標管理の徹底、社員の意識向上など、経営面での効果もあげることができます。

以下の3つの運動に積極的に取り組みましょう。

食品ロスの削減（食べ切り運動）

宴会の食べ残しは、食品提供量の14.2%。7皿のうち1皿が廃棄されていることに相当します。

（出典：平成27年度農林水産省「食品ロス統計調査・外食調査」）

健康に留意して、次の取組みをしてみてください。

○食べられる量だけ注文しましょう

参加者の嗜好や年齢層、男女比を考えながら食べきれる量に配慮して、メニューや料理の量を選びましょう。

○食べる時間を作りましょう。

できたての料理を味わい、料理を楽しむ時間を作りましょう。例えば、料理が出てから〇分、お開き前△分は、席を立たずに料理を楽しむ時間にするなど、会食毎に呼びかけましょう。※市町村においては、「30・10運動」として呼びかけている実践例もあります。

食品販売関連事業者や飲食店・宿泊業者の方は、「もったいない山形協力店」に登録し、食品ロス削減に向けた取組みを推進しましょう。

協力店への登録は県HPから [もったいない山形協力店](#)（⇒インターネットで検索）

紙ごみ削減・リサイクル運動

紙ごみは事業系ごみの中で高い割合を占めており、紙の3R（リデュース・リユース・リサイクル）を進めることは重要です。誰でも今すぐできる紙の3R運動を始めましょう。

Reduce

（リデュース＝ごみを出さない）

紙を必要以上に刷らない
会議のペーパーレス（電子）化を図る
両面・集約印刷を心がける

Reuse

（リユース＝繰り返し使う）

裏面利用を心がける
使用済みの封筒は内部連絡などに利用

Recycle

（リサイクル＝再生利用する）

OA用紙や封筒といったリサイクル可能な紙類をしっかりと分別する



以下の異物が混ざっていると、再生紙を作る上で重大な障害が起ってしまいます。
カーボン紙、感熱紙、写真、アルミ箔、粘着物のついたもの、濡れたもの、汚れたもの、金属クリップ・金具類、フィルム類、セロハン、プラスチック製品、布製品 など

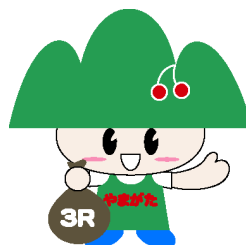
環境にやさしい製品の優先購入運動

製品やサービスを購入する際は、必要性をよく考え、長く使えるものや使い終わったらごみが少なくなるものなど、環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入しましょう。

○エコマーク商品や山形県リサイクル認定製品を優先して購入しましょう。

[エコマーク商品](#)（⇒インターネットで検索） [山形県リサイクル認定製品一覧](#)（⇒インターネットで検索）

発行：ごみゼロやまがた推進県民会議
お問い合わせ：ごみゼロやまがた推進県民会議事務局
山形県環境エネルギー部循環型社会推進課
TEL:023-630-2302 FAX:023-625-7991



ごみゼロやまがた
県民運動キャラクター
『ごみゼロくん』